北陸行啓記念帖

写真
41
/

44 贈
126
1
福井市立郷土歴史博物館

人文の繁榮進歩に伴ひ娯樂と慰安とを要求するは必然の趨勢にして爲政者の怠に看過すべからざる處なり以是我國都市公園の設けあらざるはなく園圃の備あらざるはなしされば公園の性質たる漫に都市の修飾として論議唱導せられしは今や喜言に屬し左程の重要視せられずして道德的品性の上より果た審美的娯樂の點よりして公園の必要を說かんとするもの多きに至れり。

本市西南隅に當る足羽山は實に市に於ける自然の公園、天與の園圃として市民は常に山頂に攲寢逍遥したれども而かも該山は個人の私有地に屬し嚴格に云へば猥りに攀登すべからざる地區たり、曩時鐘秀閣を建てたる際その敷地及び敷地四周の地に對し所有主に依賴してその地上權を得たるのみなりき、而して人口漸く稠密に赴き工業漸く發展して市街の僅地日に狹隘を告ぐると共に心ある者は夙に市民の健康と道德の上よりして公園の必要を感し如何にもして此の自然の公園天與の遊樂場を布有となし多少の設備と加へ之を市民に公開せんことを庶幾ひたりき、山品市長亦意を見るありしが本年初春皇太子殿下には恭くも今秋を以て北陸行啓の內報傳はるや祀恭事業として公園を開設せんと欲し市會の贊成を得長岡宏平氏を東京より聘して之れが設計を爲さしめたり、長岡氏は足羽山に登り其の甚だ高からずして而かも四望敞豁天然の眺矚に富み多少の人工を加ふるときは全國無比の公園たるへきを認め遂に舊鐘秀閣趾の廣場より運正寺谷、揚弓茶屋、佳清祀念碑の一帶を第一區となし繼体天皇御石像のある高地を中心として天慶ケ池、勝軍地藏等の地域を籠盡して第二區となし、招魂社を中心として三十三間堂一帶の地を第三區となし每區に廣場を作りて遊戲場、競技場等となし且つその地の高低陰陽に從ふて坦道若くは磴道を通じ種々の樹木を雜植して四季折々の眺めとなし要處〳〵に四阿を建てベンチを置き以て士女の遊樂に便にする設計を立てたり

然れども之れか施設費は少くとも三万圓以上を要すべきを以て衆議頗ぶる之れを難しんじたりしが義俠なる初二重商富岡仲次郎氏が先づ私費を投じて繼体天皇御石像附近の修理を爲すべしと申出でたると錦小路東宮主事が檢分の際「殿下の臺臨を仰ぐべしと內示ありたるより市參事會員及市會議員諸氏等の熱誠に依り議遽に決して施工することゝなり富岡氏亦御石像に至る第一高段及びその直下なる第二高段全部の工事を寄附し且つ　殿下の御展望所として永久的建設物を寄附すべしと云ひ意の外發展を遂げ臨井市長は第一區より第三十三區まで順次に繰出して勞役を寄附し衆力を以て第三高段の工事を成就し更に橋南の人士は再び勞役を寄附して楓弓茶屋より招魂社に至る道路を修繕し且つ市費を以て時鐘樓下より鐘秀閣趾に至る新道、藤島神社よりも第二高段に達する道路を開鑿若くは修繕して第一期工事を竣更に除力を以て第一區鐘秀閣趾の地均し第三區招魂社附近の修理を爲し殆んど全山の面目を一新したるのみならず一面には恐土肥瘠翁、國島清兵衛、野路左久治氏等の熱心なる諸氏は金圓を寄附し若くは土地の買收を決斷し該公園敷地の大部分市有となり市民は今より以后大手を振つて遊逍することを得るに至るべく公園基礎は茲に確立せり而して絹織會は植木を寄附し生糸商組合は四阿二ケ所を渡邊嘉左衛門氏は四阿一ケ所を妹尾直太郎氏はベンチ數十脚を尚市若くは社村有志及び其他より鐵ヶ竹木等を寄附して漸次公園の致趣を成さんとし十月二十二日を以て　殿下親しく臨監して奠攝覽及び古流仕合並に小學兒童の旗文字を御高覽あらせらる市民の紀念事業として光榮其れ何ものか之れに加かんや

工事日誌

七月七日　　貿業蠶業なる式は足羽山上字天魔ケ池々邊に於て擧げたり、來賓の主なるものは侯爵松平康荘氏を始め知事中村純九郎氏、警察署長上山英吉氏、外市參事會員、市會議員、學校長、區長等其數百有餘名祭壇には榊幔幕を繞らし八足木綿四手形の如く時果鮮肴を供し齋主馬來田氏以下嗣係等衣冠束帶嚴肅かに祝詞を宣し奉告の祭典を擧ぐ市長以下各々玉串を捧げ終りて市長左の式辭を讀む

式辭

足羽山公園計畫ノ爲メ其一部ヲ造設セントシテ茲ニ本日起工ノ式ヲ擧ケントスルニ當リ松平侯爵閣下并ニ本縣知事閣下其他朝野貴紳ノ來臨ヲ辱フシタルハ深ク光榮トスル所ナリ

夫レ人文進歩ニ伴フテ天然ノ景物ニ接シ自然ノ致趣ヲ與フルハマントスルハ人生ノ尤モ必要ナル慾望ニシテ之レ等園圃ノ設ケアラサルハナシ我區ニ於テモ既ニ數年ノ昔ニ於テ此ノ慾望ヲ充サンカ爲メ市ノ有志ハ相謀リ資金ヲ醵出シテ此ノ足羽山ヲ以テ公園トスルノ計畫ヲ樹テ爾來着々其歩ヲ進メ今ヤ完成ノ域ニ達セントシテアリシカ本市ノ稀有ノ大災ニ罹リ園內ノ建造物ハ一朝烏有ニ歸シ大計遂ニ沮止スルノ止ムヲ得サルニ至レリ爾來再造改修ノ念ハ市人ノ常ニ忘レ能ハサル所ナリシモ機至ラス時來ラス徒ラニ今日ニ至リタリ

拜承スル所ニヨレハ今秋ノ北陸ニ行啓ノ際　皇太子殿下ニハ此ノ紀念ノ一部トシテ公園施設ノ計畫ニ御臨覽アラセラルヽノ光榮アル行啓

式辭を終りて後侯爵並に知事奈土を肩に擔頭運搬の役を勞せられ尋で市長と署長、參會事員齊藤氏と市會議長太田氏との勞役を物せられ來觀衆庶の觀聲聲裡に起工の式を了へたり、此日役夫總掛りにて天明早々奈、繩、竹束、西洋鋤にて式場の上り口に假門を造設したるは其機智實すべく構造亦雅にして俗ならず一段の致趣ありき

七月八日　本市消防組員　三百　三十　名

全十日　第一區　二百八十名　第二區　百九十名　中學校職員生徒　六百二十名

全十一日　第三區　二百七十名　第四區　百七十二名　福井新聞社員　二十名

全十二日　第五區　三百十名　第六區　二百六十名

全十三日　第七區　三百九十名

全十四日　第八區　三百十六名　第九區　三百六十四名　福井高等小學校職員生徒　三百十名

全十七日　第十區　三百八名　第十一區　百六十名　第二佛教中學職員生徒　百六十名

全十九日　第十二區　二百五十四名　第十三區　二百八十九名

全二十日　第十四區　四百十六名　第十五區　二百六十二名　第十六區　二百九十八名

全廿一日　第十七區　二百三十八名　旭校友會　四十五人　工業講習所職員生徒　卅九人

全廿二日　第十八區　二百四十六名

全廿三日　第十九區　二百五十八名　第二十區　三百三十六名

全廿四日　第廿一區　二百七十六名　第廿二區　百九十六名　足羽郡江守校友會　三十六名

全廿五日　第廿三區　二百十八名　第廿四區　三百五人

全廿六日　第廿五區　二百四十八名　第廿六區　三百十四人

全廿七日　第廿七區　二百七十八名　第廿八區　二百三人

全廿八日　第廿九區　二百七十八名　青山校區臥龍團員　三十人

全廿九日　第三十區　四百四十八名

全三十日　第卅一區　五百四十八名

全卅一日　第卅二區　三百五十八名　第卅三區　二百四十八名

八月一日　市參事會員、市會議員、百八人　絹盛會同盟會、生糸組合、三百八人　天理教會　七十八人

全四日　日蓮宗信徒　七十八人

全七日　足羽郡上文珠村有志　五十人

全八日　本派本願寺信徒　百七十人

全廿一日　福井市青物商組合　四百人

全廿三日　福井市露店團体　六十二人

全廿六日　順化校中友會　三十五人

九月一日　足羽郡北村　百二十八人　足羽郡木田村　百二十人

全三日　福井市人力車組合　二百八十人

全九日　第八區　三百人

全十日　第七區　三百七十人

全十一日　第六區　二百五十人

全十二日　第五區　三百人

全十三日　第四區　百六十人

全十四日　第三區　二百七十人

全十五日　第二區　百八十人

全十六日　第一區　二百七十人

其他芝植付ノ爲メ各小學校生徒及橋南藝妓其ノ勞ヲ助ク

本帖ノ寫眞ハ　第一頁　起工式　第二頁　侯爵及知事ノ奈土運搬　第三頁　消防組員　第四頁　當地出身ノ東京力士梅ノ花及大綠眞龍ノ三力士ノ奈土運搬　第五頁ヨリ第二十四頁マデハ市民及學校生徒其他有志者ノ勞役寄附

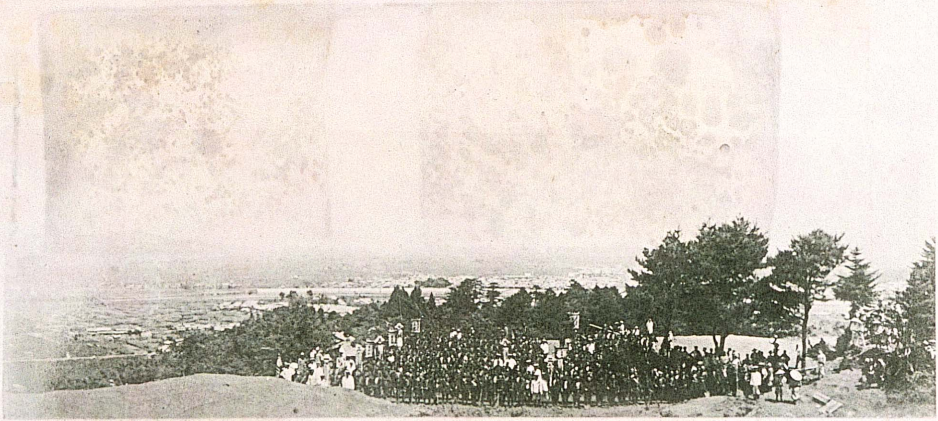
第廿五頁　足羽山頂御展望所　第廿六頁　福井驛前奉迎門

第廿七頁　御台覽ニ供セシ福井市各小學校生徒ノ旗文字（はうげん）　第廿八頁　同上（ばんざい）

第廿九頁　御展望所ノ遠景及御台覽ニ供セシ模擬戰團員其他拜觀人





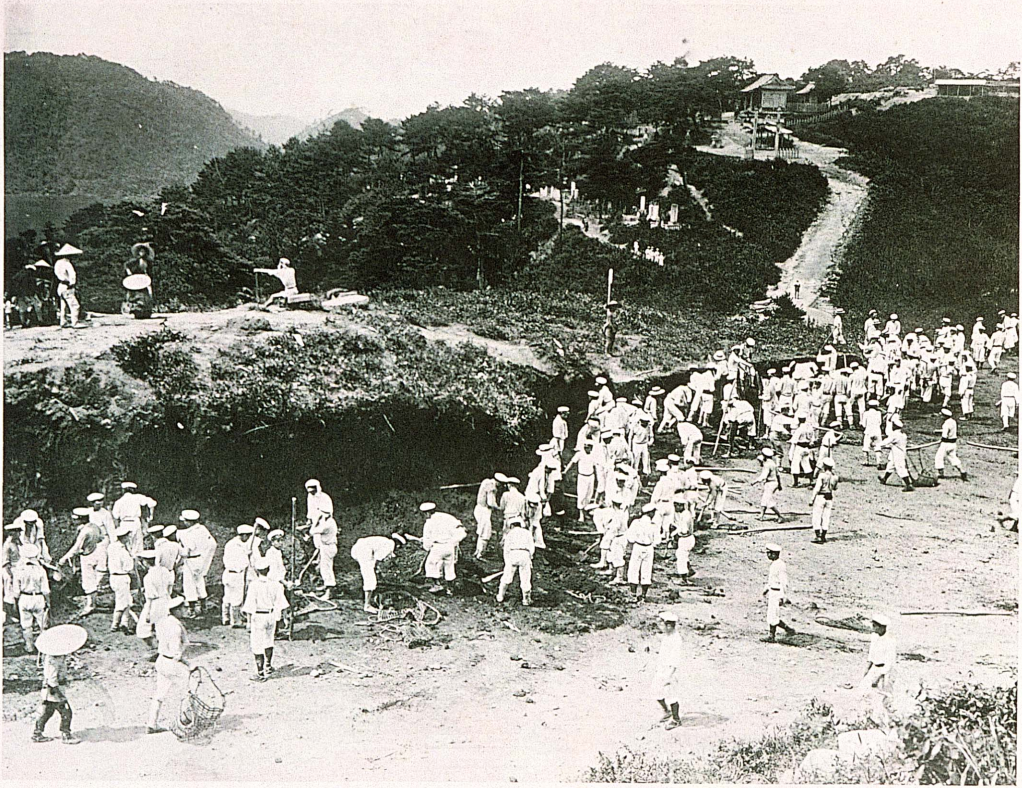






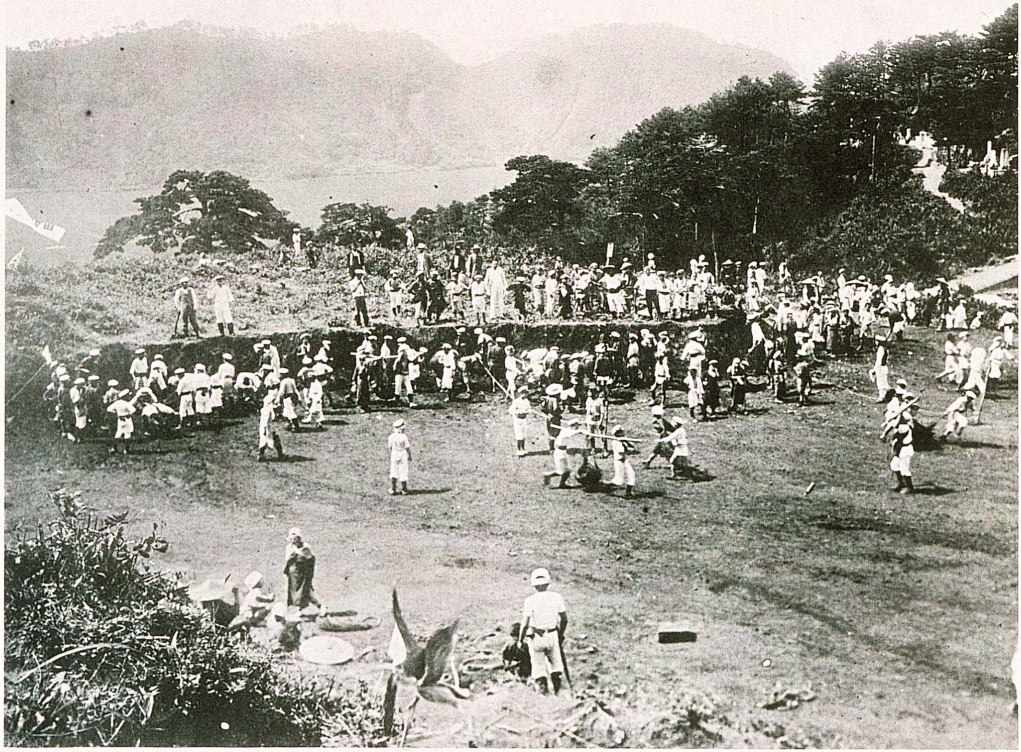

丸善日竹

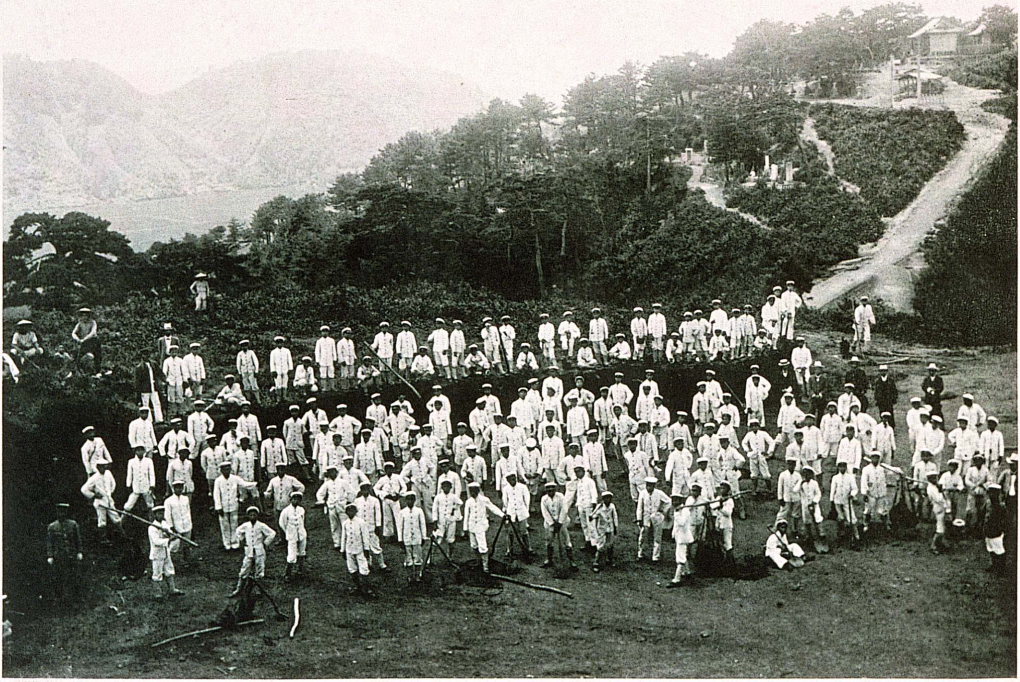




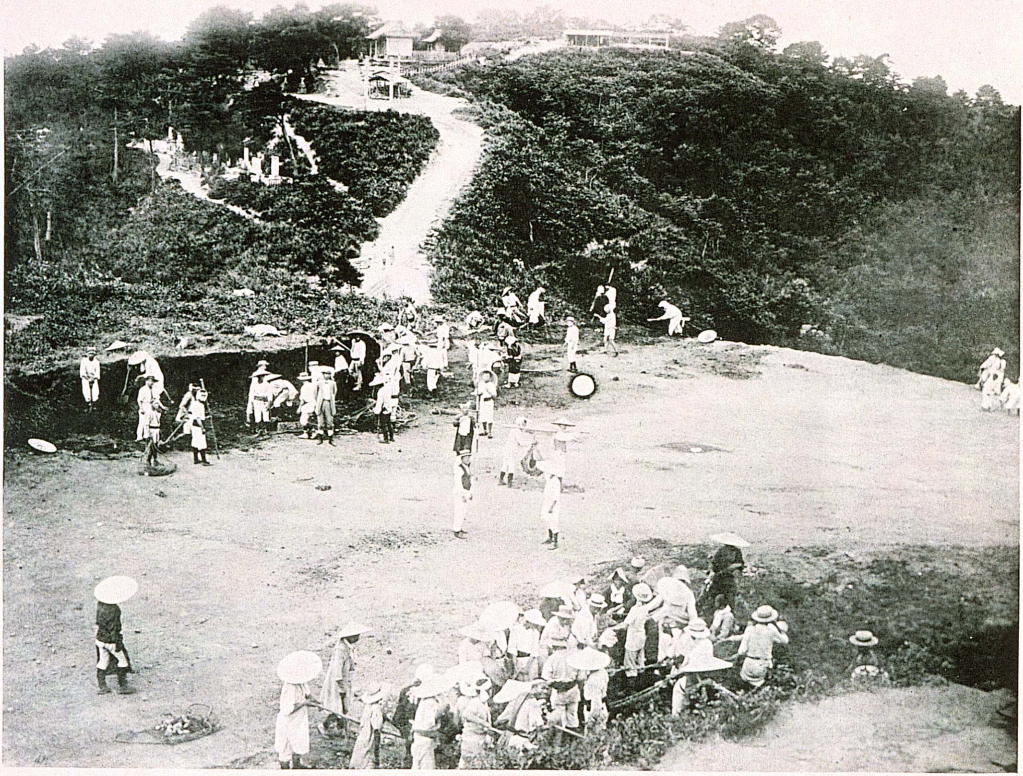


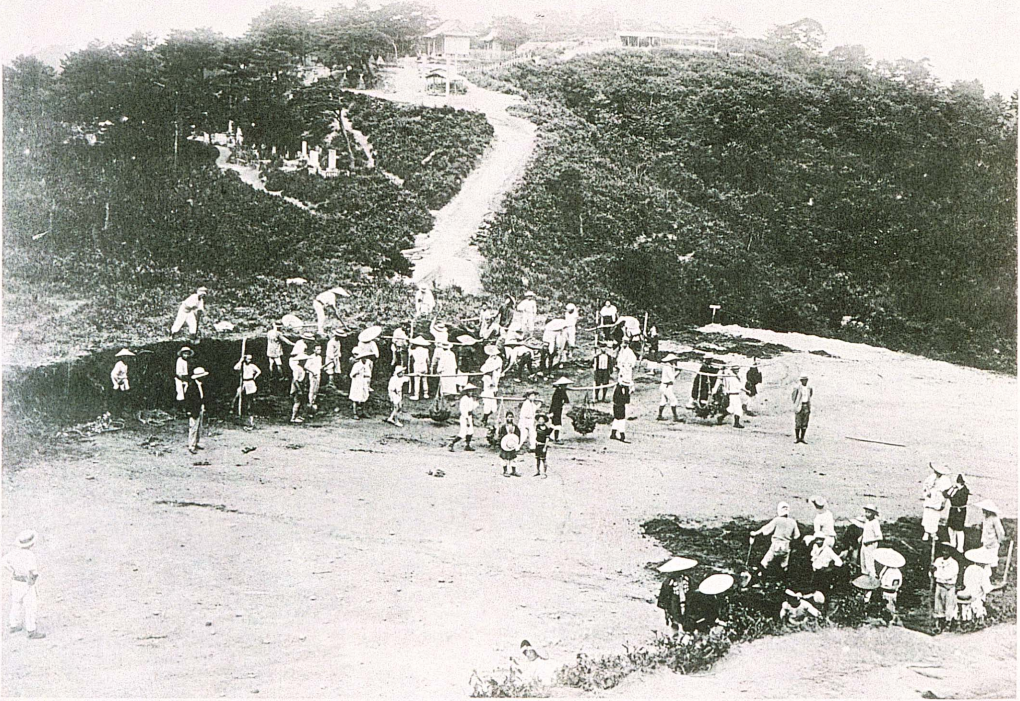




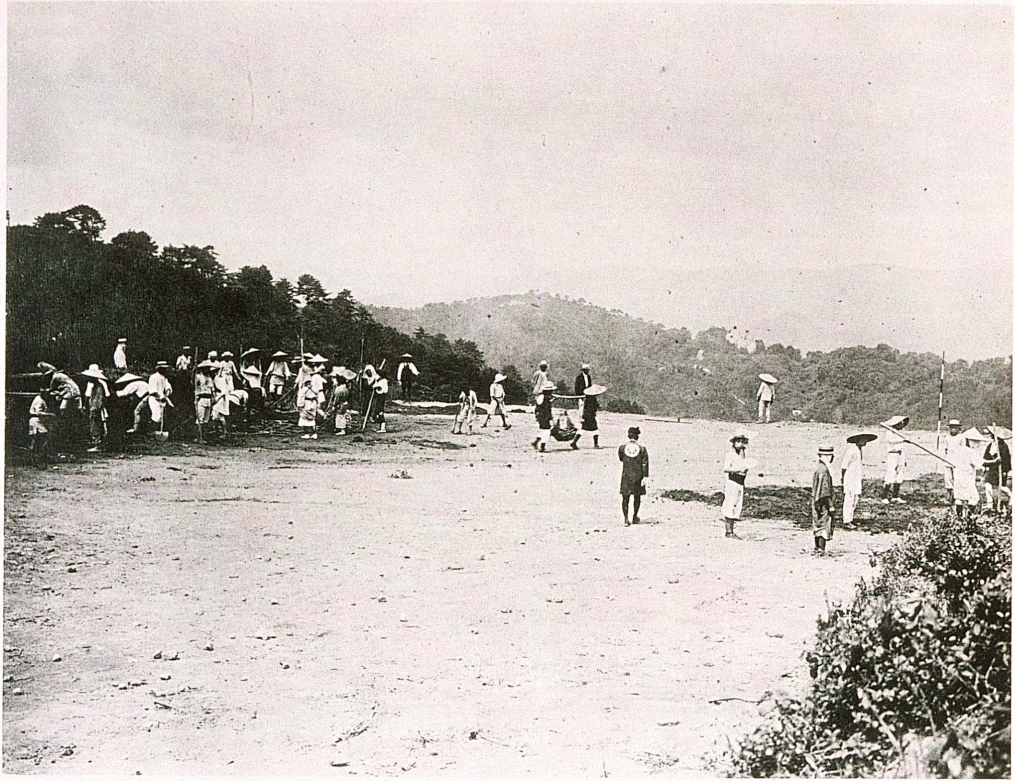


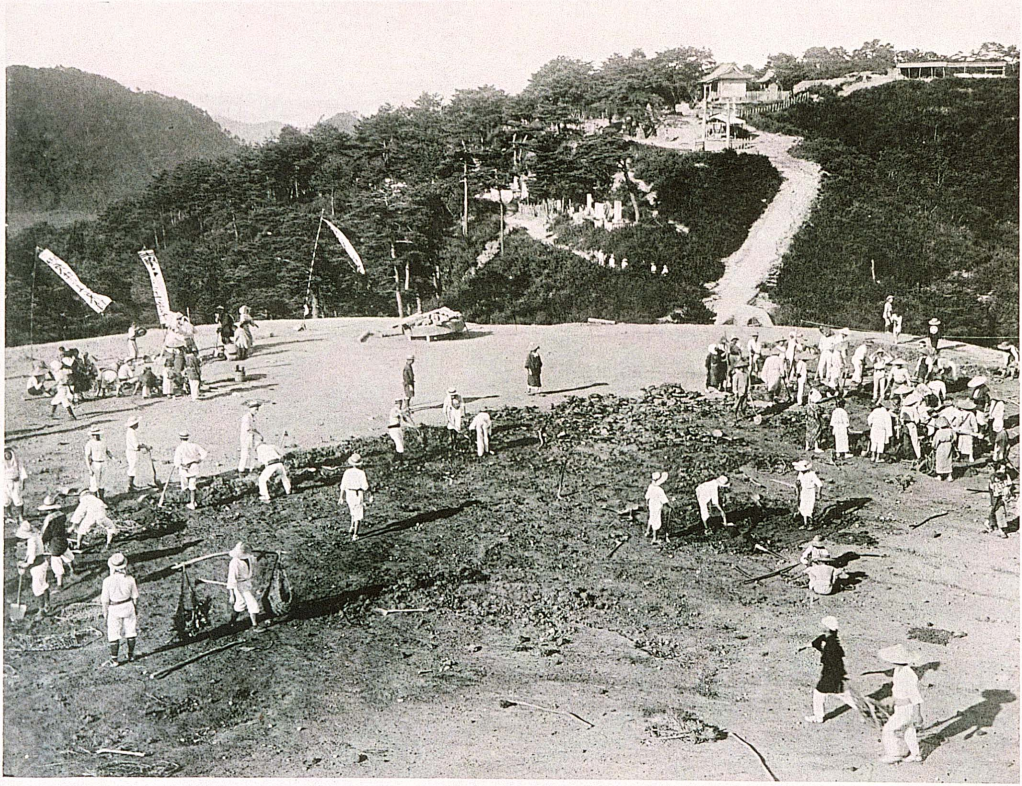






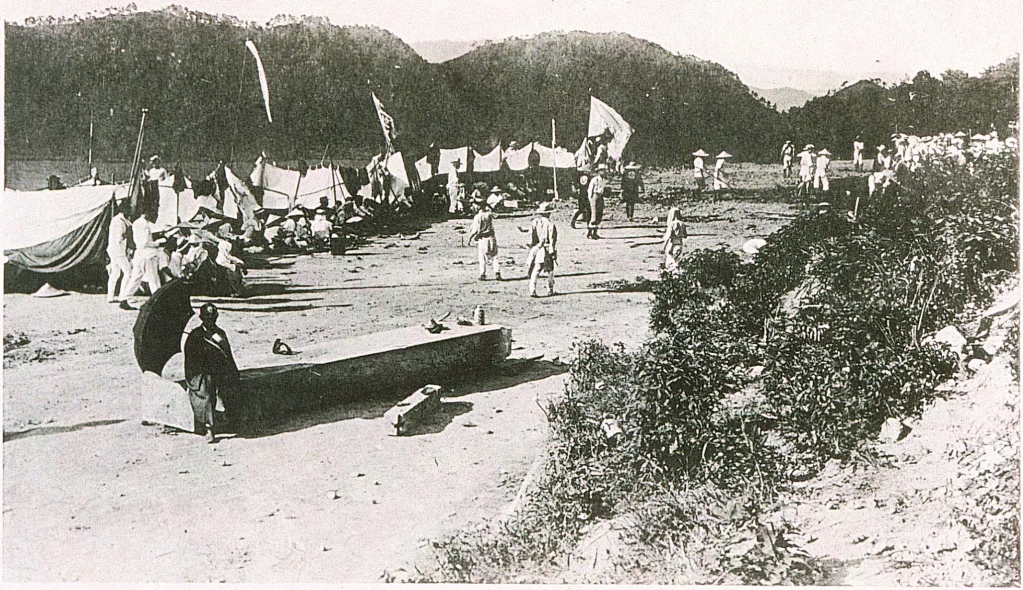








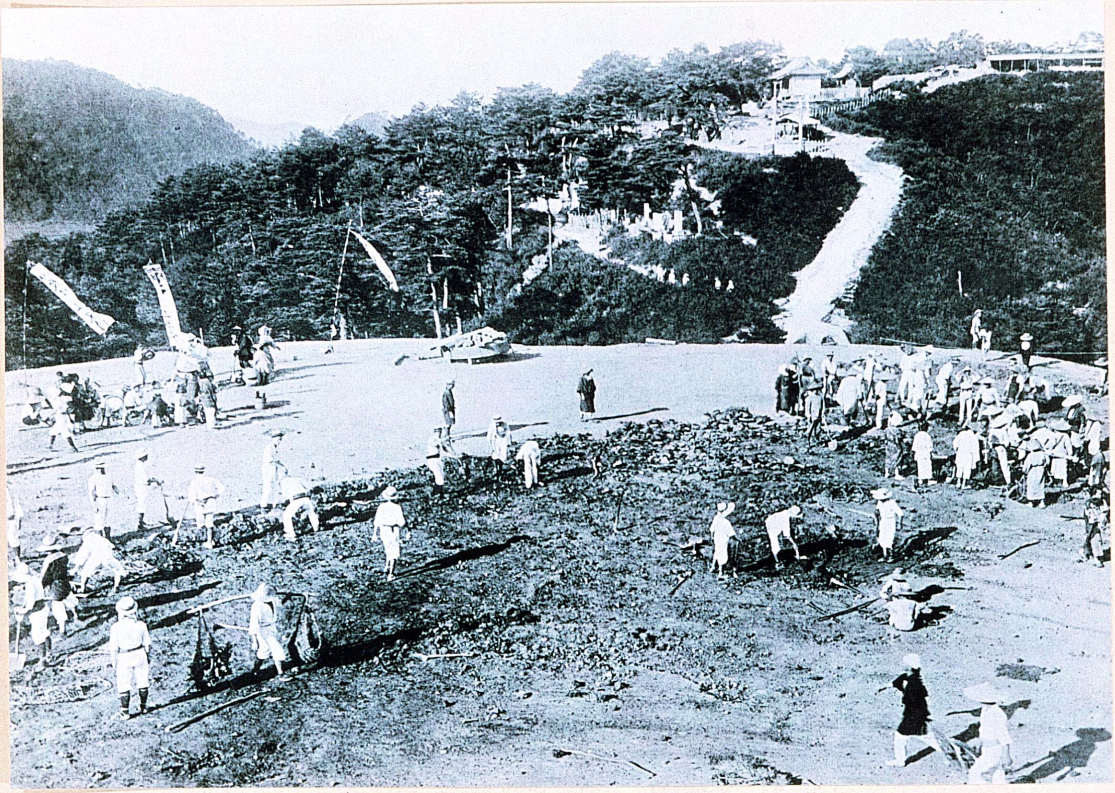




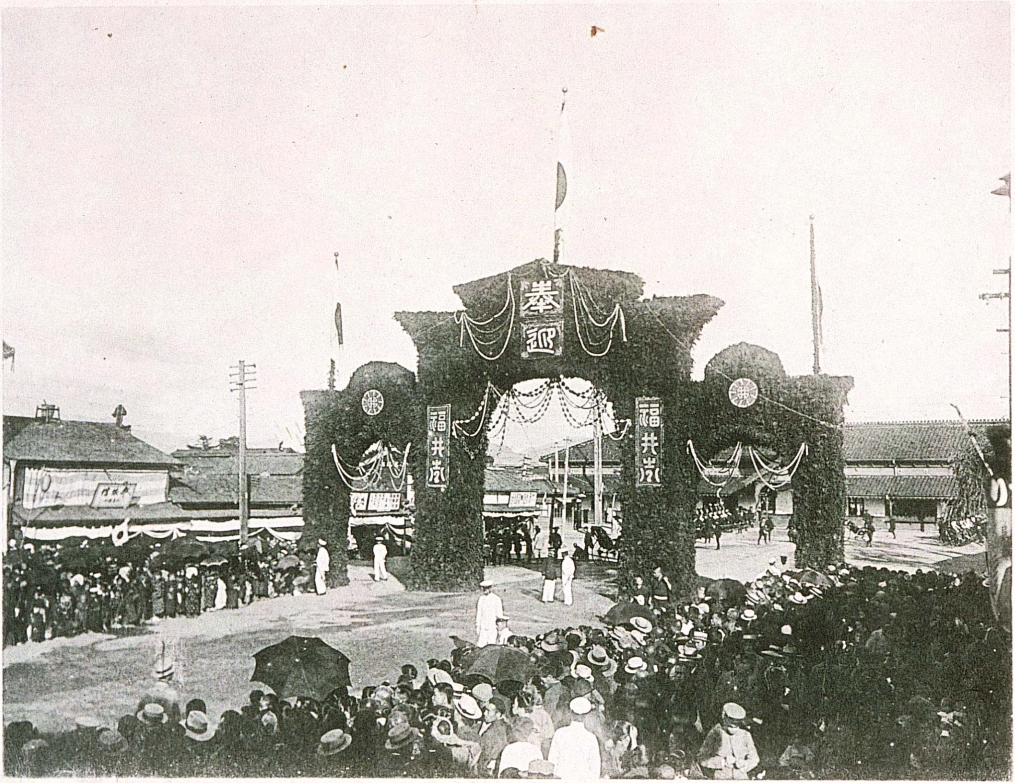











奉迎
福共栄
福共栄



